

第6学年 国語科学習指導案

1組 児童 男子13名 女子12名 計25名
 指導者 教諭 所 慎一郎
 2組 児童 男子14名 女子12名 計26名
 指導者 教諭 上山 ユミ

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
 教材名 「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」(光村 6年下)

2 単元について

(1) 児童観

児童は、1学期の説明文「生き物はつながりの中に」で、筆者の考えを読み取ったりそれに対する自分の考えをもったりする学習を行った。また、2学期の複合単元「みんなで生きる町」では、ユニバーサルデザインについて調べ、発表会を通して自分の意見を「提案文」として発信する学習を行った。このような学習を通して、自分の考えをもち表現しようとする姿勢が少しずつ見られるようになったが、文章構成を把握したり要旨を的確に捉えたりする力は十分とは言えない。

本学年児童の全体的な傾向として、興味・関心をもった内容について調べまとめるという学習には、大変意欲的に取り組む。授業中の発言については、男子が積極的である反面、女子は消極的である。

事前テスト(範読CDを1回聞かせて実施)の結果は、以下の通りである。(9月17日、50名で実施。)

問 題	正答率
① 全体の文章構成の把握(形式段落を大きく3つに分ける)	8%
② 事実と感想・意見の区別(①段落で筆者の感想が書かれている文を指摘)	64%
③ 要旨を読み取る(筆者の一番言いたいこと1文を書き抜く)	36%
④ 要旨の意味を自分の言葉で書く	2%
⑤ 戦争や平和について自分が考えていることを書く。	56%

〈①について〉序論を①②③段落と捉える児童31名、結論を⑨～⑬と捉える児童23名であった。

〈②について〉問題の意味がつかめない児童や、事実が書かれてある文を指摘した児童がおり、合わせて4割弱の児童が、意見と感想の区別を読み取れなかった。

〈③について〉⑫段落から選んだ児童16名、⑬の引用文を選択した児童7名、①から選んだ児童1名、無答8名。8割の児童が、⑫か⑬に書いてありそうだという見当はついている。

〈④について〉叙述の一部を写す、一般的な平和に対する意見を述べるなどの児童が多かった。

以上のことから、自分の考えを効果的に表現させるためにも、中核教材での文章構成の把握、事実と意見の区別、筆者の伝えたいことの読み取りを十分に行っていきたいと考える。

(2) 教材観

第5・6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことが出来るようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」ことであり、「書くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道立てて文章に書くことが出来るようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる」である。

本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」から構成され、説明文の学習を中核とし、「平和」に関する材料を集め、自分の考えをもち発信する情報活用単元の総仕上げとなる学習である。

「平和のとりでを築く」は、原爆ドームが世界遺産となった経緯の紹介を通して、「原爆ドームは、平和のとりでを築く世界の遺産なのだ」という主張を明確に読者に訴えている。

全文は13段落で、「序論・本論・結論」の構成となっており、本論は2つの意味段落に分かれている。序論で筆者が「わたし」として登場し、原爆ドームへの思いを語った後、本論の1つめの意味段落は「原爆ドームの歴史」の説明となる。そして本論の2つめの意味段落で、再び「わたし」が登場し「世界遺産への道のり」やその時々筆者の思いなどが語られ、結論の段落へつながるという構成の工夫がある。また、原爆ドームが「建造物」「記念碑」「世界遺産」「世界の遺産」などと変化していき、読者が読み進むにつれてそ

の価値も高まっていくような書き方、ユネスコ憲章からの引用、比喩などの多くの表現の工夫が見られ、これらの工夫が、筆者の伝えたいことを明確にし、読者に強く訴えかけてくる。

さらに、「平和」をテーマにした内容なので、社会科で戦争について学習したばかりの6年生の児童にとって、主体的な理解や表現活動を促すものと考えられる。

以上のことから、本教材は、本単元のねらいにせまるために適した教材であると考ええる。

(3) 指導観

第1次「つかむ」では、資料映像を見せ、原爆ドームの歴史などに興味をもたせた後、単元名、リード文に注目させ、学習の目標を明確にする。さらに、平和に関連する意見文を1～2例提示することにより「平和をテーマにした文集を作り発信しよう」という学習のゴールを示し、単元の学習計画を立てる。

第2次「見通す」では、中核教材の題名と①段落から読みの課題1「原爆ドームがたどってきた年月とはどのようなものなのだろう」、課題2「筆者は『平和のとりでを築く』で何を伝えたいのだろう」をもたせたい。

第3次「深める」では、形式段落の要点をまとめさせることを通し、「原爆ドームの歴史」と「世界遺産への道のり」について読み進め、自分の考えをもたせる。そして、⑫⑬段落のどちらの段落に、より筆者の伝えたいことが書かれているかや、引用文の効果などについて話し合った上で、要旨をまとめる。

第4次「確かめる」では、筆者の伝えたいことを読み深めて自分の考えをまとめ、モデル文をもとに意見文の書き方について学ばせる。ここで第3次までの学習を想起させながら、第5次につなげたい。

第5次「活かす」では、「平和のとりでを築く」で学習したことを活用しながら、自分の意見を書きまとめさせ、友達と交流することでさらに考えを広げたり深めたりさせたい。

【仮説に関わって】

手だて1 活用することを意識した単元構成の工夫

- ・自分の意見文を家族や同級生に読んでもらい、コメントをもらうことをゴールにすることにより、読み手に分かりやすい意見文を書こうという目的意識をもたせ、教材文で学んだ文章の構成や表現の工夫が書く活動に活かされることを実感させる。
- ・「確かめる」段階で、筆者の考えに対する自分の考えをもったり、よりよい意見文のモデル文を学習したりする時間を設定することにより、「読む」ことから「書く」ことへとつなげる。

手だて2 個の学びを深める指導の工夫

- ・「深める」段階で、引用文や言葉の使い方の感覚などについて、比べ読みを通して実感することにより、表現の効果を理解させる。
- ・「確かめる」段階で、いくつかの意見文の比べ読みを通して、中核教材で学んだ文章構成や表現の効果を再確認し、一人一人の表現活動につなげさせる。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり話し合ったりし、意欲的に書こうとしている。

【書くこと】

- ・自分の考えを明確に表現するために、材料を選んだり、効果的な文章の組み立てを考えたりしている。(ア、イ)
- ・事実と意見を区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりしている。(ウ、エ)

【読むこと】

- ・筆者の考えをまとめ、自分はどうのように考えるかを明確にしながらかく。(ウ、オ)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

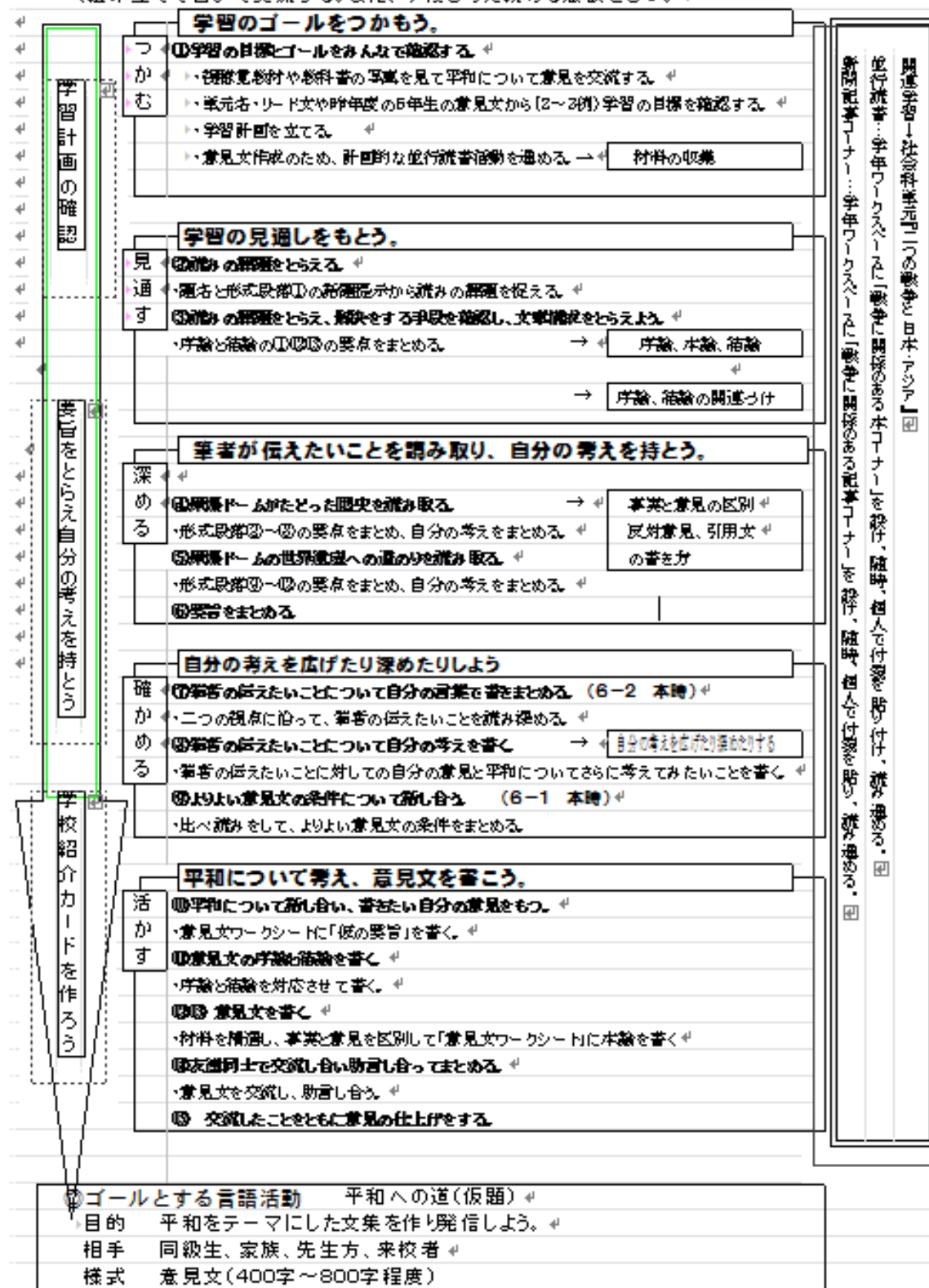
- ・文章にはいろいろな構成があることを理解し、言葉の使い方、表現の工夫に気付く。イー(カ、キ、ケ)

4. 単元構想図

単元名：筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

◎ 筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えを持つ。

「平和」についてさらに考えるために調べたり話し合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流する。また、今後も考え続ける意欲をもつ。



単元導入カード…学年ワークスペースに「戦争に関する記事のある本コーナー」を設け、随時、個人で付箋を貼り付け、読み進める。

単元導入カード…学年ワークスペースに「戦争に関する記事のある本コーナー」を設け、随時、個人で付箋を貼り、読み進める。

5 単元の指導計画と評価規準（全15時間）

次	時	学習活動	関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
1	つかむ	1	・平和や戦争について関心をもつ。 ・資料、単元名、リード文から学習のゴールと目標をつかみ、計画を立てる。	・平和に関して積極的に発言し、今後の学習に見通しをもたしている。		・新出読み替え漢字、難語句の意味を調べている。ウ-(ア)	
2	見通す	2	・題名と①の課題提示から、読みの課題をとらえる。	・題名や①段落の中の言葉に興味をもち、疑問に思った事や読みの課題を見つけようとしている。		・題名と①段落について、疑問などを書き込み、読みの課題をとらえている。(オ)	
		3	・文章を3つに分け、それぞれの役割をとらえ、読みの見通しをもつ。 ・①②③の要点をまとめ、序論と結論の関連を確認する。	・文章全体の構成や①②③の要点をとらえようとしている。		・①②③の要点をまとめている。(ウ) ・序論と結論が関連していること、筆者の思いが結論部分に書かれていることを理解している。(ウ)	・文章はいろいろな構成があることについて理解している。イ-(キ)
3	深める	4 ・	・本論を2つに分けて、②～⑧、⑨～⑪の要点をまとめる。 ・「原爆ゲームの歴史と「世界遺産への道のり」について読み取り、自分の考えをもつ。	・読み取ったことに対する自分の考えや感想を書こうとしている。		・②～⑪までの要点をまとめている。(ウ) ・「原爆ゲームの歴史と「世界遺産への道のり」について読み取ったことをもとに、自分の考えをもっている。(ウ)	
		5 ・	・⑫と⑬では、どちらがより筆者の伝えたいことが書かれてあるかを話し合う。 ・⑬段落から要旨をまとめる。	・⑫か⑬かを決める根拠を見つけようしたり、引用文の効果を考えたりし積極的に発言している。		・⑬段落の方に筆者の伝えたいことが書かれていることが分かり、要旨をまとめている。(ウ)	・表現の工夫に気付いている。(引用、反復、比喩)イ-(ケ)
4	確かめる	7 ②組本時	・読み深めるための視点(読みの視点)に沿って書き込みをし、筆者の伝えたいことについて書きまとめる。	・視点こそって書き込みをしようとし、積極的に発言している。		・読みの視点もとづき、自分の考えを明確にしながら筆者の伝えたいことを書きまとめている。(ウ)	・語感、言葉の使い方に對する感覚などについて関心をもっている。イ-(カ)
		8	・話し合ったことをもとに、筆者の伝えたいことに対して、自分どう考えるか書きまとめる。 ・さらに考えてみたいことを書く。	・筆者が伝えたいことに対しての自分の考えや、さらに考えてみたいことを書こうとしている。		・筆者が伝えたいことに対する自分の考えを書きまとめている。(オ)	
		9 ①組本時	・モデル文を参考に、よりよい意見文の条件に気づく。	・いくつかの意見文を比べ読みし、その良さなどを見つけようしたり、積極的に発言したりしている。	・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成や表現の効果を考えている。(イ)		・文章はいろいろな構成があることについて理解している。イ-(キ)
5	活かす	10 ・	・平和について考えてみたいことを班毎に話し合い、自分の書くことを決める。 ・発言する目的や相手、課題、方法を確認する。	・平和について考え、書きたいことを決めようとしている。 ・自分の意見に説得力を持たせるために必要な材料を集めている。	・考えたことの中から適切な課題を決めている。(ア) ・全体の構成を考えながら序論と結論を書いている。(イ)		・自分の考えを明確に表現するために、序論と結論の内容を考えている。イ-(キ)
		11	・現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、「意見文ワークシート」に序論と結論を書く。				
		12 ・	・事実と意見を区別して「意見文ワークシート」に本論を書く。 ・二つの事実で軽重をつけ、より具体的に分かりやすく書き換える。	・調べた事柄を効果的に組み立て、意見文ワークシートに書こうとする。	・集めた材料をもとに要旨を確定し、事実と意見を区別して意見文を書いている。(ウ)		・送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。イ-(ウ)
		13					・語感、言葉の使い方に對する感覚などについて関心をもっている。(カ)
		14	・書きまとめたものを班ごとに推敲し、交流し合う。 ・交流しあったことを全体に広げる。	・表現の仕方について気付いたことを書き、積極的に発言している。	・表現の仕方に着目して助言をし合っている。(カ)		・文章はいろいろな構成があることについて理解している。イ-(キ)
15	・交流したことをもとに意見文の仕上げをする。	・表現の効果について確かめたり工夫したりしながら、意見文を書きまとめようとしている。	・表現の効果について確かめたり工夫したりしながら、意見文を書きまとめることができる。(ウ)(オ)				

6 本時の指導【7 / 15時 6年2組】

(1) 目標

読みの視点にもとづき、筆者の伝えたいことについて、自分の言葉で書きまとめることができる。

(2) 指導にあたって

本時において「自分の考えを明確にする」ことを、「筆者が伝えたいことを自分の言葉で表現し直すこと」と捉えている。2次で設定した読みの課題「作者は『平和のとりでを築く』から何を伝えたいのか」の解決につながる時間でもある。そのために、前時に、⑫と⑬のどちらに筆者の言いたいことが書かれているのかや、引用の意図などを理解した上で要旨をまとめ、そこから改めて読みの課題を思い出させ、「心の中に平和のとりでを築くとは一体どういうことなのか」、「戦争が人の心の中で生まれるとはどういうことなのか」という本時の読みの視点を引き出しておく。

手立て1 活用する事を意識した単元構成の工夫

- ・ 表現することを意識した「読み」～読み取ったことを自分の言葉で再構成する場の設定。
- ・ 「とりで」という言葉に着目させ、筆者がその言葉を選んだ意図を考えることにより、自分の意見文を書くときの言葉の使い方に活かす。

手立て2 個の学びを深める指導の工夫

- ・ 見通しをもたせた上で一人学びで書き込みをさせ、必要に応じて個別支援を行う。
- ・ 学習シートの工夫をする。
- ・ 自分の言葉でまとめたものをペアで交流し、相互評価を加えることにより、自分の表現を高められるようにする。

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

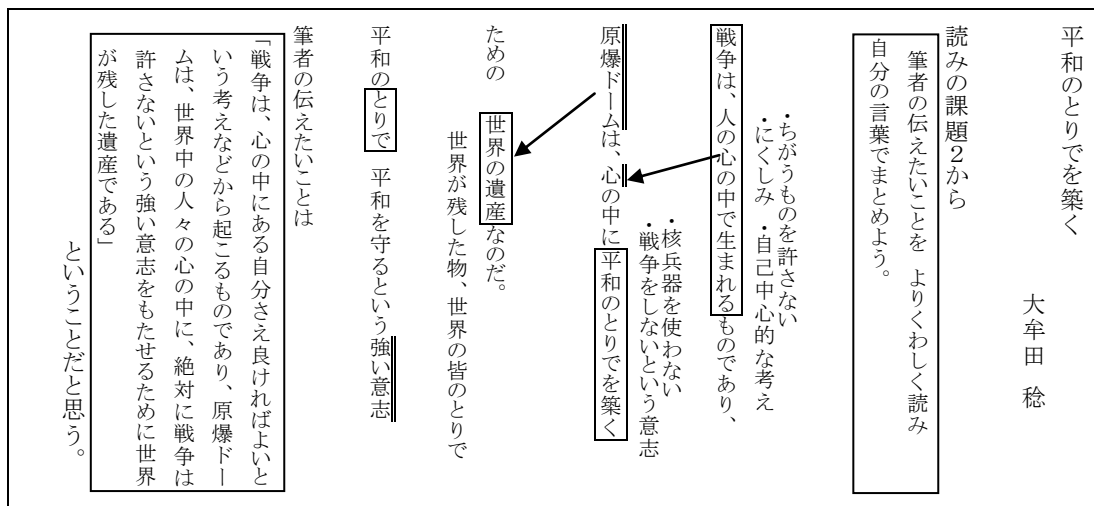
評価の観点	具体的評価規準		努力を要する児童への手立て
	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	
読む能力 ・読みの視点にもとづき、自分の考えを明確にしながら筆者の伝えたいことを書きまとめている。	・2つの視点について、自分の言葉や言葉を豊かに使って、筆者が伝えたいことについてよりくわしくまたはより深く書きまとめている。 ・的確な言葉、文章で、筆者の思いが表現されている。	2つの視点にそって、自分の言葉や話し合ったことを使って、筆者が伝えたいことについて書きまとめている。	→板書を参考しながら一緒に書き方を確認していく。 →シートに沿ってまとめた文を書いていくようにさせる。

(4) 展開

段階	学習活動と児童の反応(・)	支援(○)と評価(□)
つかむ 5分	1. 前時までの学習を想起する。 ・読みの課題2 ・前時にまとめた要旨	○読みの課題2と、前時に⑬段落からまとめた要旨を思い出させる。
	2. 学習課題を確認する。 筆者が伝えたいことを よりくわしく読み、自分の言葉でまとめよう。	
5分	3. 読みの視点を確認する。 ・「平和のとりでを築く」とはどんな意味か。 ・「戦争は人の心の中で生まれる」とはどういうことか。	○筆者の一番伝えたいことは、⑬段落に書かれていることから、⑬段落に注目させる。 ○前時に設定した読みの視点を思い出させ確認する。
	4. 学習場面を音読する。	○⑬段落を音読させる。
	5. 課題に対して自分の考えをもつ。 ○考える手がかりをつかむ。	○心の中にもつ「とりで」であることに注目させ、そこから「気持ち」という見方を見つけさせる。

<p>深める</p> <p>35分</p>	<p>〈「とりで」とは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とりで」の意味は？ ・どんな思いなのか？ <p>〈「戦争は人の心の中で生まれる」とは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな心から戦争が生まれるのか？ <p>○2つの視点について自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とりでを築く」＝平和を守ろうとする気持ち、戦争を許さない気持ち、強い意志など ・「人の心の中で生まれる」＝憎しみ、自己中心的な考え、違いを認めないなど <p>6. 全体で考えを交流し、深める。</p> <p>○書き込んだことを発表し深める。</p> <p>○なぜ筆者は「とりで」という言葉を使ったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の言葉との比較(柵、囲い) <p>7. 筆者の伝えたいことをまとめる。</p> <p>○筆者が伝えたいことはどんなことか、話し合ったことを考えながら自分の考えをまとめる。</p> <p>8. 発表し合い、筆者の伝えたいことをまとめる。</p> <p>○全体に発表しまとめる。</p>	<p>□2つの視点について、積極的に発言できたか(挙手・発言)。</p> <p>○どちらか1つでも書けると良いことを知らせ、1つも書けない児童には、個別に助言を行う</p> <p>□読みの手がかりをもとに、視点にそって書き込みをすることができたか(学習シート)。</p> <p>○全体の話し合いでは、次の書きまとめる作業を想定して、教師の方で、話し合いの内容を分かりやすく整理していく。</p> <p>□自分なりの言葉や話し合ったことを使って、2つの視点を落とさずに筆者が伝えたいことについて自分の言葉でまとめることができたか。(学習シート)</p> <p>○全体の前にペアで発表し合い、相互評価する事によって互いの表現を高めさせたい。(時間があれば)</p>
<p>筆者が私達に伝えたいことは、「戦争は、心の中にある自分さえ良ければよいという考えなどから起こるものであり、原爆ドームは、世界中の人々の心の中に、絶対に戦争は許さないという強い意志をもたせるために世界が残した遺産である」ということだと思う。</p>		
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>9. 今日の学習について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で置きかえながら(考えをもちながら)読み、表現に活かすこと。 ・読み手に自分の考えを伝えるときには、言葉の選び方が大切であること。 <p>10. 次時の予告をする。</p>	<p>○課題とまとめの確認をする。本時の学習と単元のめあてとのつながりを確認する。</p> <p>○次時は、今日まとめたことに対する自分の考えを書くことを伝える。</p>

(5)板書計画



6 本時の指導【9 / 15時 6年1組】

(1) 目標

自分の考えを明確に伝える意見文の条件について考え、気づくことができる。

(2) 指導にあたって

本時は、児童が中核教材で学んできた「平和のとりでを築く」とモデル文をくらべ読みし、「平和」について意見文を書くためには、どのような条件で書いていけば、よりよい意見文になるのかを気付いていくことをねらいとする。

よりよい意見文の必要な条件を「①事実と意見の区別をかき分ける。②序論、本論、結論の内容に一貫性を持たせる③反対意見を効果的に使う。④引用文を効果的に使う。⑤言葉の選び方。」ととらえた。

本時で、教師が自作したモデルの文章を児童に提示し、比べ読みをさせることで、児童に①～⑤の視点をもたせ、よりよい意見文の条件に気付かせたい。

本時の指導の仮説との関わりは、以下の通りである。

手だて1 活用することを意識した単元計画の工夫

- ・ モデル文を考え、自分の意見文の参考にする。
- ・ 学習の振り返りを次時の活動に結びつける。

手だて2 個の学びを深める授業展開の工夫

- ・ 考えの根拠を明確にした学び合いを仕組む。

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準		努力を要する児童の手だて
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	
書く能力 ・ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成や表現の効果を考えている。	本論と結論の関連づけ、反対意見の効果、引用の効果の全部について気付き、プリントによりよい意見文の条件を書いている。	本論と結論の関連づけ、反対意見の効果、引用の効果の内、2つについて気付き、プリントによりよい意見文の条件を書いている。	それぞれの文章についての違い、よさ等に目を向けるように助言する。

(4) 展開

段階	学習活動と児童の反応 (・)	支援 (○) と評価 (□)
つかむ 5分	1. 前時の想起をする。	○前時に書いた「平和のとりでを築く」の筆者の考えに対する自分の考えや、さらに考えてみたいことを発表させる。(2人程度)
	2. 学習課題を確認する。 よりよい意見文には、どういう条件が必要か考えよう。	
	3. 見通しを持つ ○よりよい意見文とは、どんな意見文か考える。 ・ 読み手に分かりやすい。 ・ 自分の考えが明確に書かれている	○「平和のとりでを築く」学習したことを想起させる。 ○教師自作のモデルを提示し、気付いたことを発表させ、よりよい意見文の条件①に気付かせる ○条件①は、全体で行ってそれ以後は一人で行うことを伝える。
	4. モデル文を使って全体で考える ○事実と意見の書き分け方 A～事実と意見を書き分けている。 B～事実と意見を正しく書き分けてきている。 5. 課題を解決する。	

<p>深める</p> <p>35分</p>	<p>(1) 条件②についての一人学びをする。</p> <p>○序論、本論、結論の内容に一貫性を持たせる。</p> <p>A～序論、本論、結論の内容が関連している。</p> <p>B～序論、本論、結論の内容が関連していない。</p> <p>(2) 全体で発表し、話し合う。</p> <p>(3) 条件③、④についての一人学びをする。</p> <p>A～反対意見、引用文がない。条件②のAの文書を使う。</p> <p>C～反対意見、引用文がある文書。</p> <p>(4) 全体で発表し、話し合う。</p>	<p>○教師自作の文章を配布し、気付いたことを発表させ、よい意見文の条件に気付かせる。</p> <p>□条件②に関するモデルA、Bを読み比べ、序論、本論、結論の内容の関連のさせ方に気づき、プリントに書くことができたか。</p> <p>○なかなか書き進められない児童には、どの部分が違うかを指摘し、どう思うか考えさせる。</p> <p>○中核教材で学習したことを教室の掲示物で見直し、話し合いの際に生かす。</p> <p>○教師自作の文章を配布し、気付いたことを発表させ、よい意見文の条件に気付かせる。</p> <p>□条件③、④に関するモデルA、Cを読み比べ、反対意見、引用文がある文書の効果に気づき、プリントに書くことができたか。</p> <p>○なかなか書き進められない児童には、どの部分が違うかを指摘し、どう思うか考えさせる。</p> <p>○中核教材で学習したことを教室の掲示物で見直し、話し合いの際に生かす。</p> <p>○条件⑤については、全体で考える。</p>
<p>まとめる</p> <p>5分</p>	<p>6. 学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>よりよい意見文を書く際の条件は、</p> <p>①事実と意見の区別をかき分ける。</p> <p>②序論、本論、結論の内容に一貫性を持たせる</p> <p>③反対意見を効果的に使う。</p> <p>④引用文を効果的に使う。</p> <p>⑤言葉の選び方。</p> </div> <p>7. 学習の振り返りをする。</p> <p>○自己評価をする。</p> <p>8. 次時の確認をし、学習の見直しをもつ。</p>	<p>○①～②については、児童が意見文を書く際の必修とし、③から⑤については、可能な限り用いるということを確認する。</p> <p>○見通しで考えた条件が比べて自己評価をさせる。</p> <p>○本時の自己評価について発表する。</p> <p>○本時で学んだことと中核教材で学習したことを生かして意見文を書いていくことを確認する。</p>

7 板書計画

<p>⑤言葉の選び方。</p> <p>④引用文を効果的に使う。</p> <p>③反対意見を効果的に使う。</p> <p>②序論、本論、結論の内容に一貫性を持たせる</p> <p>①事実と意見の区別をかき分ける。</p>	<p>振り返り</p> <p>よりよい意見文を書く際の条件は、</p>	<p>モデル文の掲示</p>	<p>モデル文の掲示</p>	<p>モデル文の掲示</p> <p>・読み手に分かりやすい。</p> <p>・自分の考えが明確。</p>	<p>平和のとりでを築く</p> <p>課題</p> <p>よりよい意見文には、どういふ条件が必要か考えよう。</p> <p>大牟田 稔</p>
---	-------------------------------------	----------------	----------------	--	--